

# 1S-05 インターネットを利用した 個人学習者の モチベーションマネジメントに関する実験

慶應義塾大学政策・メディア研究科 室井 比宏

慶應義塾大学 SFC 研究所 大川 恵子

慶應義塾大学環境情報学部 村井 純

## 1. はじめに

社会に出たあとも自らの知的好奇心を満たしたいという個人の欲求が高まっている現在、資格取得教育や通信教育や大学での社会人入学などが注目されている。一方、学習にもいくつかスタイルがあるが、現在の通信教育、遠隔教育といったものはほとんどが個人での学習を支援するものにとどまっている。

教室という場で教師から学生への一方的な知識の伝達を行う講義型の学習や、テキストを中心とした自己学習スタイルのほかにも、議論を通じてお互いの知識を交換しあい、ブラッシュアップしていく学び合いの学習スタイルを取り入れることは、学習者に刺激を与え学習意欲を向上・持続させる可能性がある。

本研究では、インターネットを基盤とした大学環境の実現を目指す School of Internet(SOI) システム[1]上で、個人学習者の学習意欲を高める仕組みを構築することを目指す。具体的には、遠隔地で学習している個人学習者館でのコミュニケーションを促進させることによって、学習意欲を高めることを目指す。

## 2. 遠隔、通信教育での問題点

遠隔教育や通信教育で一番問題となることは、学生のやる気をいかに持続させるかという点である。通信教育を受けている学生へのアンケート[2]によると、卒業まで到達するのは入学者の 1 割にも満たないという少ない率であり、受講を続けている学生も相当な努力をして受講を続けている状況である。

学校という場に通うという学習方法と遠隔・通信教育とを比較した場合、教室へ決まった曜日、決まった時間に出向き授業を受講するという時間的規則性があるという点と、同じ授業を同じ時間に受けている仲間がいるという環境的側面が整っているという点が遠隔・通信教育には足りず、デメリットとなっている。

また、遠隔・通信教育で学習を行う際にはテキスト等と自分との一対一のやりとりとなってしまう、疑問に思った時などにすぐに解決する方法がない。疑問、質問をすぐに解決できないことは学生のストレスにもなり、学習の意欲を削ぐものになる。

ディスカッション等を取り入れた、議論を取り入れた授業は現在の遠隔・通信教育ではほぼ不可能なものである。学習の方法が限られて来ることも遠隔・通信教育の不利な点である。

## 3. SOI での学習の現状

SOI では現在約 5000 人の登録学生が学んでいる。学生の学習の大まかな流れは、まず入学をして、リアルビデオと web を用いて授業を履修し、課題を web 上で提出するというものである。その補助手段として、質疑応答や学生間、学生と教師間のコミュニケーション、成績通知、授業評価などがある。

このような学習基盤のなかで、SOI におけるコミュニケーション環境の現状は、メーリングリスト、IRC、BBS、レポートの相互参照・コメントシステムがあげられる。現在は Email、BBS は主に学生と教師の間のコミュニケーションを、IRC、レ

ポートシステムは主に学生間同士のコミュニケーションを助けている。

しかし、今まではIRCやMailingListはほとんど活用されておらず、またBBSも99年度の授業では最低0件から最高26件までと少ない数字であり、かつ投稿内容もアシスタントからの連絡などが主になっており議論を行うなど学生間で活発なやり取りを行うものにはなっていない。なぜIRCやMailingListが活用されなかったのか、その理由と解決法を以下で述べる。

#### 4. きっかけ作り

今までSOIでは、IRCやMailinglistというコミュニケーションの場のみを提供していた。コミュニケーションの場が用意に提供可能な点は、インターネットを用いた遠隔、通信教育のアドバンテージである。しかし、場の提供のみにとどまって、場を活性化させることをしてこなかった。そのために学習者の利用が妨げられて、持っていたメリットを生かすことができていなかった。その解決策として、最初の一步を踏み出させるための「きっかけ作り」をすることを提案する。アシスタントが発言のきっかけを学生に与えることで、コミュニケーションの場を活性化させることを目指す。まったくの無の状態が発言することは、学生に負担を与える。実際、IRCにおいて、最初の一言はこんにちはなどの挨拶でスタートすることが多い。しかし、そこから会話が進まないことが多々見受けられる。IRCのルームという場に入った瞬間、学生が得られる情報は、参加している人数と参加者のニックネームだけである。そのような条件のもとで、会話を進行させることは、いかに同じ知的興味、学習意欲を持った学生であっても難しい。アシスタントが会話のきっかけをつくれれば、その後は学習者間での会話が進むようになる。

IRCは自分が参加する前の過去の発言は見る事が出来ない事が多い。一方MailinglistやBBSなどは過去の発言が記録されていることが多いため、過去の発言を読むことでその場の雰囲気を読むことが出来るため、発言しやすさはあがっている。しかし、長期間発言が無いなど停滞している場であると、発言しやすさは下がってしまう。ここでも、最初のきっかけはアシスタントが与える必要がある、最初の一步を踏み出せばその後は発言の容易さが高まる。

#### 5. まとめと今後の課題

インターネットを使った学習は、今までの通信教育と大きく異なり、学生間の交流が容易であるというアドバンテージを持つ。しかし、そのアドバンテージはその場を持つということがアドバンテージなのではなく、その場をうまく活用していかないと、生かすことはできない。今回は「きっかけ作り」を行うことで個人学習者間でのコミュニケーションを促進し、個人学習の励みとする方法を実践した。今後はコミュニケーションのみならず、個人学習者間で自発的に議論が始まるような場を構築し、個人学習者がインターネットを用いた学習空間で学ぶことに対するモチベーションをよりあげていくことを目標とする。

#### 6. 参考文献

- [1] School of Internet  
<http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/>
- [2] 室井比宏 「インターネット上での学習環境におけるコミュニケーションの促進に関する研究」慶應義塾大学卒業論文、2000年